

# 日曹 フロンサイド<sup>®</sup> sc

FROWNCIDE

登録番号 第18751号

種類名 フルアジナム水和剤  
fluazinam

殺菌剤分類 29

性状 淡黄色水和性粘稠懸濁液体

有効年限 3年

有効成分 フルアジナム 39.5%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 500ml×20本

## ■特長

1. 抗菌スペクトルが極めて広い殺菌剤です。
2. 植物病原菌の各感染過程を低濃度で強力に阻害します。
3. 低濃度で高い予防効果があります。
4. 薬剤耐性菌にも優れた効果があります。
5. ハダニの密度抑制効果があります。

最新の登録内容、  
SDSはこちら

## ■適用病害虫名及び使用方法

(2024年5月15日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法
かんきつ	そうか病 灰色かび病	2,000～ 2,500	200～700 ℓ/10a	収穫30日前まで	1回	1回	散布
	黒点病 ミカンサビダニ ミカンハダニ チャノホコリダニ	2,000					
りんご	斑点落葉病 すす点病 すす斑病 褐斑病	2,000～ 2,500	100～200 ℓ/10a	収穫45日前まで  落葉後～展葉期 まで	1回	2回以内 散布または 落葉に散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内	落葉に散布
	黒星病	1,000～ 2,000					
	モニリア病 輪紋病	2,000	200～700 ℓ/10a	収穫45日前まで	1回		土壌灌注
		500	50～100 ℓ/樹				
りんご (苗木)	白紋羽病 紫紋羽病	500	—	植付時	1回	2回以内 苗木浸漬は1回 以内、土壌灌注 は1回以内	20分間 苗木浸漬
			25～50 ℓ/樹	植付後 但し、収穫 開始1年前まで	1回		土壌灌注
なし	黒星病 黒斑病	2,000～ 2,500	200～700 ℓ/10a	収穫30日前まで	1回	2回以内 散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内	散布
	輪紋病	2,000					
		500	50～100 ℓ/樹				
ネクタリン	白紋羽病	1,000	100～200 ℓ/樹		1回	1回	土壌灌注
		500	50～100 ℓ/樹		1回		

殺菌剤 日曹フロンサイドSC

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法	
小粒核果類 (うめを除く)	白紋羽病	500	50～100 ℓ/樹	収穫後から 開花前まで 但し、 収穫60日前まで	1回	1回	土壌灌注	
うめ	黒星病 灰色かび病	2,000	200～700 ℓ/10a	発芽期まで 但し、 収穫60日前まで	1回	2回以内 散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内	散布	
もも	灰星病 ホモプシス腐敗病			1回	散布			
もも	白紋羽病	500	50～100 ℓ/樹	収穫30日前まで	1回		土壌灌注	
		1,000	100～200 ℓ/樹				土壌灌注	
ぶどう	晩腐病 黒とう病 べと病 灰色かび病 枝膨病	2,000	200～700 ℓ/10a	開花直前～ 落弁期 但し、 収穫60日前まで	1回		2回以内 散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内	散布
	白紋羽病	500	50～100 ℓ/樹	収穫21日前まで	1回			土壌灌注
1,000		100～200 ℓ/樹	土壌灌注					
びわ	灰斑病	2,000	200～700 ℓ/10a	収穫7日前まで	1回		1回	散布
	白紋羽病	500	50～100 ℓ/樹	収穫後から 開花前まで	1回			土壌灌注
		1,000	100～200 ℓ/樹					土壌灌注
キウイフルーツ	灰色かび病 果実軟腐病	2,000	200～700 ℓ/10a	収穫30日前まで	1回	1回	散布	
	100ℓ/樹		1回		土壌灌注			
キウイフルーツ (苗木)	白紋羽病	500	—	植付時	1回	1時間 苗木浸漬		
かき	黒星落葉病 落葉病、炭疽病 灰色かび病	2,000	200～700 ℓ/10a	収穫45日前まで	1回	1回	散布	
おうとう いちじく	白紋羽病	500	50～100 ℓ/樹	収穫30日前まで	1回	1回	土壌灌注	
ブルーベリー	根腐疫病			1回	土壌灌注			
いちご	炭疽病	1,000	50ml/株	育苗期	1回	3回以内	灌注	
あずき	菌核病			1,000～ 2,000	収穫21日前まで		3回以内	3回以内
いんげんまめ	炭疽病 灰色かび病	収穫7日前まで						
	いんげん	菌核病	1,000	100～300 ℓ/10a	収穫14日前まで			
アスパラガス (露地栽培)	茎枯病 斑点病	2,000	100～300 ℓ/10a	収穫終了後 但し、 秋期まで	5回以内	5回以内		
ごぼう	黒条病	1,000		収穫21日前まで	3回以内	3回以内		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法
たまねぎ	乾腐病	50	-	定植直前	1回	7回以内 〔全面土壌混和は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、散布は5回以内〕	5分間 苗根部浸漬
	白色疫病	1,000	100～300 ℓ/10a	収穫3日前まで	5回以内		散布
	灰色腐敗病 べと病 灰色かび病	1,000～2,000					
	灰色かび病	250～500	25ℓ/10a				
食用ゆり	葉枯病	1000	100～300 ℓ/10a	収穫14日前まで	6回以内	8回以内 〔球根瞬間浸漬は2回以内、散布は6回以内〕	
	鱗茎さび症	50	-	植付前	2回以内		
ばれいしょ	そうか病	100	-	植付前	1回	6回以内 〔種いも浸漬は1回以内、植付前の土壌混和及び植付時の植溝散布は合計1回以内、植付後の散布は4回以内〕	種いも瞬間浸漬
	疫病	500	25ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内		
		1,000～2,000					
		2,000					
菌核病	2,000						
かんしょ	基腐病	1,000	100～300 ℓ/10a	収穫30日前まで	2回以内	3回以内 〔植付前は1回以内、植付後は2回以内〕	散布
	やまのいも	2,000		収穫7日前まで	4回以内		
てんさい	褐斑病	1,000	3ℓ/m <sup>2</sup>	移植前		1回	5回以内 〔は種前の土壌混和及び苗床灌注は合計1回以内、株元散布及び散布は4回以内〕
	根腐病	1,000～2,000					
	黒根病	1,000					
小麦	紅色雪腐病 雪腐大粒菌核病 なまぐさ黒穂病	1,000	60～150 ℓ/10a	根雪前	2回以内	3回以内 〔は種前は1回以内、は種後は2回以内〕	散布
	雪腐小粒菌核病	1,000～2,000	25ℓ/10a				
		250					
茶	炭疽病、輪斑病 新梢枯死症 (輪斑病菌による) もち病、網もち病 灰色かび病 褐色円星病 チャノホコリダニ	2,000	200～400 ℓ/10a	摘採14日前まで	1回	1回	散布
うるし	白紋羽病	500	20～50 ℓ/樹	発病前	1回	3回以内	土壌灌注
ゆり	茎腐症 (リゾープス菌による)		3ℓ/m <sup>2</sup>	定植後	2回以内		

殺菌剤 日曹フロンサイドSC

作物名	適用病害虫名	使用量		使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法						
		薬量 (ml/10a)	希釈水量 (ℓ/10a)										
やまのいも	褐色腐敗病	500	100～200	植付前	1回	5回以内 〔植付前の土壌混和は1回以内、植付後の散布は4回以内〕	全面散布 土壌混和						
はくさい	尻腐病 軟腐病			定植前	1回	2回以内 〔土壌混和は1回以内、土壌散布は1回以内〕	全面土壌 散布						
	根こぶ病			1回									
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病 根こぶ病			150～200	定植前	は種 又は 定植前	2回以内 〔苗床では1回以内、 本圃では1回以内〕	3回以内 〔苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、土壌 散布は1回以内〕	全面散布 土壌混和				
	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病					1回	全面土壌 散布						
	株腐病					1回	全面土壌 散布						
ブロッコリー カリフラワー	根こぶ病			100～200	定植前	1回	1回	全面散布 土壌混和					
かぶ													
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)								50～200	植付前	1回	3回以内 〔植付前は1回以内、 植付後は2回以内〕	全面散布 土壌混和
レタス 非結球レタス	ビッグベイン病 すそ枯病												
	軟腐病 すそ枯病	1回											
かんしょ	基腐病	400～600	100～200						植付前	1回	6回以内 〔種いも浸漬は1回 以内、植付前の土壌 混和及び植付時の 植溝散布は合計 1回以内、植付後の 散布は4回以内〕	全面散布 土壌混和	
ばれいしょ	粉状そうか病												200
	粉状そうか病 そうか病	600	100						は種前	1回	3回以内 〔は種前は1回以内、 は種後は2回以内〕	全面散布 土壌混和	
小麦	縞萎縮病	500											
チューリップ	微斑モザイク病 条斑病	500	100～200						植付前	1回	7回以内	全面散布 土壌混和	

## △ 効果・薬害などの注意

1. 使用直前に容器をよく振ってください。
2. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いぎってください。
3. 保護効果主体の薬剤であり、病原菌に感染した後の散布では効果が不十分な場合があるので散布時期に注意してください。
4. かんきつに使用する場合は次の事項に注意してください。
  - (1) レモンには薬害を生じるので使用をさけてください。
  - (2) 病害とミカンハダニの同時防除に使用する場合、かけ残しのないようにていねいに散布してください。
5. なしに使用する場合は、幸水等の赤なしの幼木や樹勢の劣る樹では、新葉に薬害が発生するおそれがあるので注意してください。
6. ぶどうに使用する場合は、葉や果実に薬害が発生するおそれがあるので、使用時期を厳守してください。なお、ネオマスカットは特に薬害を生じやすいので使用をさけてください。
7. いちごに使用する場合は、新葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
8. 本剤と他剤との混用は、薬害を生じやすいので注意してください。特に、なし、ぶどう、もも及びうめでは十分注意してください。なお、うめについては発芽期までの使用に留めてください。
9. きゅうり、レタス等には薬害を生じるおそれがあるので、周辺にそれらの作物がある場合にはかからないように注意して散布してください。
10. 土壌灌注する場合は、次の事項に注意してください。
  - (1) 白紋羽病、紫紋羽病に使用する場合は、樹幹から半径1m程度の範囲を掘り上げて根部を露出させ、病根を除去した後所定濃度の薬液を灌注し埋め戻すか、半径1m程度の範囲に土壌灌注機を用いて所定量の薬液を灌注してください。但し土壌灌注機による灌注は予防的使用か軽症樹に限って行ってください。
  - (2) 苗木に使用する場合は、植付時に所定量の薬液を灌注しながら掘り上げた土を埋め戻すか、植付後に土壌灌注機を用いて所定量を注入してください。
  - (3) 適用の範囲内で、樹の大きさにより灌注水量を調節してください。
  - (4) 10アール当たりの処理本数が多い場合には、150本を超えないように適用の範囲内で使用してください。
11. 全面散布土壌混和で使用する場合は、所定量の薬量を均一に散布し、土壌と十分混和してください。降雨直後の処理は、混和むらの原因となるのでさけてください。
12. 根こぶ病を対象に本剤を多量に使用すると初期生育が抑制される場合があるので、適用薬量の範囲で使用してください。
13. 全面土壌散布で使用する場合は、畦立て作業後に所定量の薬量を均一に散布してください。
14. キャベツ、はくさい、レタス及び非結球レタスの全面土壌散布では、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後回復し、作物の生育、収量に影響はありません。  
(定植後の多雨または、過度の灌水条件で発生しやすいです。)
15. だいこんに使用する場合は、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後の生育には影響しません。
16. 落葉に散布で使用する場合は、ほ場内で落葉に対して均一に散布してください。
17. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
18. 小麦、ばれいしょ、たまねぎに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
19. 使用に当たっては使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
20. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

**安全使用上の注意**


21. 皮ふ感作性を有するため、皮ふかぶれなどを生じることがあるので、以下の点に注意してください。
- (1) かぶれやすい体質の人及び本剤又は他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物などとの接触はさけてください。
  - (2) 薬液調製時及び使用の際は、帽子、保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
  - (3) 降雨時、又は樹木が濡れている場合には作業を行わないでください。
  - (4) 剪定、施肥、摘果、除草、袋かけなどの管理作業をすませてから使用してください。
  - (5) 使用後の入園はできる限り期間をおいてください。特に摘果、袋かけのような作業を行う果樹では少なくとも7～10日間の期間をあけてください。
  - (6) 使用後の入園の際も、帽子、保護メガネ、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
  - (7) 使用した後及び摘果などのため使用後入園し作業した後は、直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
  - (8) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
  - (9) 施設内では使用しないでください。
  - (10) 高温、多湿時に長時間の使用及び作業はさけてください。
  - (11) 苗床で使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないよう注意してください。
22. 眼及び皮ふに対して刺激性があるので薬剤が眼に入ったり、皮ふに付着しないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。皮ふに付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。

**水産動植物への影響：**水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

**保管：**密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な場所に保管してください。

- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

**※いちご分野での安全使用について**

**いちご分野での使用に際し、下記の使用上の注意事項に関し、厳守してください。**

- 本剤は、皮ふ感作性を有するため、皮ふかぶれ等を生じることがありますので、いちごの使用においては、以下の点に特にご注意ください。
- ①かぶれやすい体質の人及び本剤又は他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触はさけてください。
  - ②**施設内では使用しないでください（育苗ハウスは施設に該当します）。**
  - ③薬液調製、処理、処理後の作業時において、メガネ、マスク、不浸透性手袋、防除衣に係る注意事項を遵守してください。
  - ④処理後から再入園までの期間は、できるだけあけてください。  
(7～10日間を目安に現地作業事情を考慮し、できるだけ期間をあけてください。)
  - ⑤育苗管理作業を済ませてから、本剤を使用してください。
  - ⑥高温、多湿時の長時間の散布（灌注）作業及び管理作業はさけてください。
  - ⑦処理後の採苗・定植作業時は、必ず手袋を着用して作業をおこない、直接苗（土壌も含む）に触れないように注意してください。
  - ⑧処理及び作業時は風通しが良い、常に換気できる環境下となるよう努めてください。

**【農薬をご使用の際は】**

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。